

全国で少人数数学級の声あがる 私たちが大事にしたい視点とは…

コロナ禍で広がる

少人数数学級を望む声

九月八日、教育再生実行会議は、少人数数学級を「令和時代のスタンダード」として推進するよう要請する中間答申をまとめました。この会合の中では、新たな時代の学習環境に関し、三密の回避やパソコン端末の活用を進める観点から、少人数制によるきめ細かな指導体制を計画的に整備する方向性を確認しました。時事通信より、少人数数学級を期待する声はどんどん広まってきています。

この広まりの一因にあるのはソーシャルディスタンスの確保という視点でしょう。宗谷管内の各学校では少人数数学級の実現のため、教職員や地域の方の声を署名という形で集め、文科省や国会、道議会へ届けてきました。それはコロナが始まる何年も前からです。私たちは何

のために署名を集めてきたのでしょうか。

分散登校で感じた

少人数数学級のよさ

コロナにより昨年度・今年度と全道、全国で分散登校が行われました。最初は子どもたちの状況をj知ることが大きな目的でした。コロナの終息がなかなか見えない中、臨休が続くことで授業の進度が大きな課題となり、分散登校で教科の学習も行われるようになりまし。七月十九日の道新には次のような記事が載りました。

旭川市の中学三年の男子生徒は、感染防止の少人数数学級が終わったことが不満だ。五月下旬の分散登校では、一クラスが通常の三十四人から十七人に半減。理解できなかった二次方程式を教員から個別に教えてもらい、苦手意識が消えた。「なんだ、人数が少なければ分かるじゃん。」これまで考えたこともなかった。

この生徒の言葉が本質を突いているのではないのでしょうか。子どもたちの「そうか、わかった!」という笑顔は私たちの働き甲斐の一つです。

教育を豊かに…

それが私たちの願い

宗谷管内には複式学級の小規模校から、学年に複数学級がある大規模校まで様々な規模の学校がありますが、その中でも小規模校が多い地域です。教育再生実行会議では「少なくとも三十人、できれば二十人を目指すべきだ」という意見が出ています。ではそれ以下関係のないことなのでしょうか。少人数学級の必要性を感じている先生は多くはないのではないのでしょうか。

少人数学級が実現するということは、教育にかける予算が増えるという

私のおすすめ

消しゴムはんこを作り始めて2年近くになりました。mizutamaさんの消しゴムはんこワークショップに行く機会があり、そこで「ものづくり」が楽しいと初めて感じました。職員室の回覧板に押しついたり、暑中見舞いや年賀状、生徒たちの夏休みの宿題に押しついたりして活用しています。おかげで程内東中の教職員向け職員紹介では「特技は消しゴムはんこ」と書かれるまでになりました。先生方からたくさん消しゴムはんこについて声をかけられて、私はとても嬉しいです♪

作っているときはたまにご飯を食べることを忘れることもあります(笑)。黙々と取り組むのでストレス解消にもなっています。また、Instagramで消しゴムはんこ作家たちの作品を見て勉強をしています。

細い線が彫ることができてうらやましいです。全国の消しゴムはんこを作っている先生方もつながることができ、そこでなわ作文の会の学習会を紹介してもらってzoomで参加することもできました。

写真は今年3月の臨時休校中に作った「アマビエ」と「アマエビ」です。「疫病退散」を願って作りました。早くみんなが活動できる日々が戻って来ますように♪ (程内市立程内東中学校 太田 千絵)



ことです。現在は市町村ごとに学校予算を手厚くしたり、市町村費職員を配置したりしています。関係のないことなのでしょうか。少人数学級の必要性を感じている先生は多くはないのではないのでしょうか。

ると言えるのです。コロナにかかわる報道は毎日行われています。子どもたちの命と健康を守る視点はとて大切ですが、しかし、子どもたちに確かな力を…という視点も忘れてはなりません。



編集後記

最近、回るお寿司屋さんに行き思ったこと。「炙り」とか「マヨ」とかが、気づいたら「なんだかぜついなあ」と感じた。反対に、いつまで食べていられるものもある。それは、得てしてそれほど味の濃くないものだったりする。考えてみれば、「主食」とされるものはあまり味が濃くないものであ

ることに気づく。教育にも似たようなところはあのかせられない。子どもたちにとって「味の濃い」活動は、いつか飽きか来ってしまうもののかせられない。そしてそれらの活動は、「地道な日々の積み重ね」という「主食」に支えられている…という言い過ぎだろうか。

宗谷の「先生」をつなぐ 月刊誌「soya」2020.10

発行日 2020.10.1
発行人 宗谷教職員組合
発行人 古川 正史
〒097-0004 程内市第2丁目4-21 宗谷教育会館
20162-22-2480 メール info@soya-teachers.org

Soya

宗谷の「先生」をつなぐ月刊誌

10

2020 October vol.6

宗谷管内の魅力いっぱいの情報誌
毎月無料で机上にお届け!

語ろう!子どもたちの成長を! 学びの秋、教育実践を交流しよう!

全国で少人数数学級の声あがる 私たちが大事にしたい視点とは…

授業づくりの玉手箱③「保健室からの発信」
私のおすすめ「消しゴムはんこ」



Photo:枝幸町・神威岬公園

